

令和元年度第3回小諸市総合計画審議会 議事概要

令和2年3月18日（水）開催

開催日時 令和2年3月18日(水) 午3時30分から

開催場所 小諸市役所 第1、第2会議室

出席委員 相原良男、荻原勝己、佐藤重、佐藤英人、富岡淳、西村廣一、古屋昌和、
山下千鶴子、依田孝彦
以上9名

(欠席：片桐喜美江、黒澤正幸、寺島克彦、中村健、以上4名)

1 開会（進行：企画課長）

（委員の変更があったため、1名に委嘱書交付）

2 あいさつ

（市長）

本日は、年度末で大変お忙しいところ、令和元年度第3回総合計画審議会にご出席いただき、誠に感謝申し上げます。

昨年12月から新型コロナウイルスによる感染症が中国を中心に発生し、現在、全世界的に患者数が増加していると毎日のようにテレビ等で報道がされており、我が国においても罹患者数は増加傾向にある。小諸市においても対策本部を設置し、これまでに対策会議を9階開催し、対応しているところである。

新型コロナウイルス感染症の広がりを受けて、3月6日付で市民の皆様に対し、私から市長メッセージを発信した。その内容をかいつまんで申し上げます。今回の新型コロナウイルスを克服するためには、市民の皆様と行政が共に力を合わせなければならない。そのためには、「恐怖や不安に負けずに、冷静に落ち着いて行動しましょう。」「自分でできる感染予防は徹底して行いましょう。」「困ったときはお互い様」の精神で助け合いましょう」「患者や家族に対するいわれない差別や偏見は許しません」ということを大切にし、小諸市民全体が一致団結して新型コロナウイルスに立ち向う、という内容である。

世界的に見ても、まだまだ患者数が増える傾向であり、ウイルス感染症の終息のほか、世界経済においても先行きが見えないような状況となっており、小諸市で言えば宿泊業者の方々の稼働が1割2割に落ち込んでいるとも聞く。飲食店でもこの歓送迎会シーズンに予約が全てキャンセルとなっているということで大変な状況である。そういった方向けの対策を始めているが、十分ではない状況である。お弁当持ちの方は週に1回は外食やお弁当を買うなどといった助け合いを行っていただければと思う。協力し合い、お互い様の精神でやっていければいいと思う。

さて、今回の会議だが、メインは地方創生に関わる「小諸市の総合戦略」についてである。まち・ひと・しごと創生は「人口減少克服」と「地方創生」の推進が目的であり、今年度末をもって第1期が終わるという状況である。この改定について、現状と併せて今後の改定方法等について報告し、ご意見をいただく予定である。

ちょうど市長選挙が絡むという中で、新年度の1年間で基本計画と総合戦略を計画していくということをお願いをしたいと思う。

本日の会議においては、忌憚のないご意見や真摯なご議論をお願い申し上げ、第3回の審議会にあたってのご挨拶とさせていただきます。

3 報告事項

(会長)

市長からはコロナウイルス問題についての市の対応方針、また本日の会議の趣旨を説明いただき、感謝申し上げます。会議の内容とは少し違うが、私が思っていることを話させていただく。グローバル化という形での世界が1つという状況下、情報は全て手に取るようにわかり、インバウンドでは観光客がいっぱい来ているため、観光産業は潤う。一方、昔と違い感染症が発生すると世界に瞬時に回ってしまう。世界の情報の享受・観光産業と、かたや感染症である。表と裏であるをつくづく思う。我々はそういった中にいるということをもう一度考えた方がいいと強く思っている。また、去年の秋の台風の時も、長野県も相当な被害を被ったかと思うが、東京では多摩川が氾濫した。皆さんご存じないかも知れないが、川そばの二子玉川には料亭が何軒もあり、堤防があると川が見えにくいということで、一部分には堤防がない。そこが今回の水害でやられ、相当な被害に遭った。眺望が良いということと、堤防があるということの表と裏のような状態は、私達は絶えず頭のどこかに置いて考えていなければならない。明るいことばかりではなく、その裏には何があるかを常に考えなければならないと思っている。ところで、ここにきて危機管理において、想定外という言葉が良く使われるが、最悪の状況はどういうことかと思いを巡らしながら、その対応を行政・企業は考えていかなければならない。今回コロナのことで学校が休校になっているが、オンライン授業が色々なところで行われている。また、企業もテレワークを推奨している。今後、私たちが考えなければいけないことが先取りした形で行われているように感じる。是非これが本格的に動くように、20年後30年後を見据えたら絶対必要になってくるので、ピンチをチャンスにする良い機会であると思う。最悪の状況を考えた対応が不可欠である。さて、本日は総合計画審議会であるが総合計画を考える場合、選択と集中は大切である。一方、選択と分散ということも頭のどこかに置いておくことが必要ではないか。つまり、柔軟な発想ということである。会議の前に市長と話をした。小諸の風光明媚な環境は良いという話をしたが、環境にとどまらず春夏秋冬がはっきりしていて暑さや寒さを体感できるので、小諸人には素晴らしい感性が育まれると思う。感性がないと想像力が働かない。感性が良いと想像力が働き、想像力があれば2手先、3手先を読むことができる。想像力を働かせ小諸の良さを大事にしながら、総合計画に反映できればと考える。まとまりのない話になったが本日はよろしくようお願い申し上げます。

(1) 作業部会「地方創生関連交付金事業ヒアリング」について

(事務局より資料1に沿って事業の概要説明、野生鳥獣商品化施設の製品紹介)

(会長)

事務局より説明があったが、私の方からヒアリング結果を報告する。1つ目の野生鳥獣の事業について、黒字化を予定しているということで採算ベースに乗ってくることを強く感じた。課題、意見等については、資料1を見ていただきたい。シカ肉事業については交付金を得ずに事業が進んでいる状態である。これから外だしができるように、進めていただければありがたい。もう一つの日本版DMO「こもろ観光局」のプロジェクトについては、まだ全体像が掴めていないように思う。私の意見としては、見える化をして、市民の方々にはっきりとわかるようにしていただ

きたい。せっかくオール小諸で観光をやっ払いこうという話になったわりには、一体感が乏しいというのが我々の意見であった。ぜひ担当の方に、記載されている課題・意見等を見ていただき、進めていただきたい。令和3年でこの交付金のプロジェクトは終わる。終わるということは、今行っている交付金に関わる事業をこれからどうするか考えていただければありがたいと思う。また、この2つのプロジェクトを遂行していく中で、地域おこし協力隊という言葉がよく出てくるが、地域おこし協力隊が今後どのように関与していくのか、ここをどう整理していくのかが大きなポイントとなってくる。詳細は資料をご覧くださいと思うが、まとめると、①シカ肉の事業については黒字化の見込みであるので、独立してやっ払いけるようになっていただきたい。②DMOについては残り2年であることを重く受け止め、プロジェクトを進めていただきたい。ヒアリング出席委員の方々、補足等はあるか。

(補足等、特になし)

(会長)

特にないようなので報告は以上とする。

(事務局)

それでは、ご意見等あればお願いしたい。

(委員)

初めて参加するので教えていただきたいが、この施設はどこにあるか。

(事務局)

施設自体は、南城公園に入ってすぐ右側の位置にある。以前は、犬に関する県所有の施設であった。

4 協議事項

(1) 小諸市まち・ひと・しごと創生総合戦略の改定について

(会長が議長となり、議事を進行)

(事務局より資料2～4に沿って説明)

(会長)

事務局からの提案は、切れ目のない状態にするために、第1期を平成27年度から令和2年度までの6年間、第2期を令和3年度から令和6年度までの4年間としたいということと、数値目標を現状に合わせ適宜修正を行いたいということの2点である。これについてご質問等あればお願いしたい。

(委員)

切れ目がない状態を確保できないという理由がよく理解できなかった。詳しくご説明願いたい。また、目標値が実績値と乖離する場合に目標を下げるとあるが、なぜ目標を下げなければいけないのか。

(事務局)

国や県に相談したところ、令和2年3月で第1期の計画期間が終了するにも関わらず、令和2年度末までに第2期の策定を行うということは、切れ目がある状態であるというご意見をいただいた。目標値については、後ほど担当部長から詳細なご説明を申し上げる。

(会長)

他に質問等あるか。

(委員)

令和2年度の3月までに次期総合戦略の策定を行うことはできなかったのか。そうしなかった理由を教えてください。

(事務局)

国が掲げた目標を達成するために、地方自治体は地方版総合戦略を策定することとなっているが、その目標は令和元年12月20日に出されたばかりである。3月までにその目標に沿って次期総合戦略を策定するのは時間的に厳しく、また、小諸市の場合、総合計画の中の1つの政策として位置付けているため、総合戦略と併せて令和2年度に改定作業をさせていただきたいということである。

(委員)

第11次基本計画は新しい市長が決まったところで策定するのであれば、5か年計画ではなく、4か年計画の方が良いように感じるが、その点についてはいかがか。

(事務局)

1つは市長の公約を反映させるということがあるが、もう1つとして、前年の施策の評価を重要視しており、その評価を次の計画に生かすというサイクルで運用している。令和元年度の評価は5月末の決算が済んでから始めるため、どうしてもタイムラグが発生してしまう。

(会長)

それでは、事務局の提案のとおり1年間延長としたいがよろしいか。

(異議なし)

(会長)

それでは数値目標について事務局から説明願いたい。

(事務局より資料5～7に沿って説明)

(事務局)

移住・定住の促進『重要業績評価指標』欄の20・30代層の純移動者数について、目標を定めるにあたり住宅を建てやすい環境にしていくために様々な施策を打ってきたが、なかなか思うようにいかない部分があった。現状値がマイナスであったものを、プラス200近いところまで持っていくということは困難であり、景気の動向もある中では、現状をなんとか維持していく方向で目標値の改定をさせていただきたい。実際に具体的な取り組みとして、住宅費の補助の大胆な拡充として、当初新築住宅の建設、中古住宅の購入等で最大50万円の補助を始めたが、そうした補助の対象者にアンケートを行ったところ、この補助金の有無に関わらず新築や購入を行ったという意見もあったため、PDCAサイクルとしては費用対効果を考えた時に効果があまり見られないという中で、東南部地区の開発へシフトしていったという経過である。昨年度から着手している東南部開発であるが、市所有地を民間の不動産会社に売却し、分譲していただいたわけだが、それに伴い、市でインフラ整備を行った。10区画整備したところは10区画全て売却され、9戸建築されている状況である。そういった施策の転換もしながら、現状を維持していきたいと考えている。

(会長)

この数値自体は暫定値であり、これから精査していく予定であるため、この段階で細かく議論をするのは好ましくないと思われる。委員の方々、質問等あればお願いしたい。

(委員)

年少人口の暫定値が5,068人、目標値は4,962人となっているが、改訂版では目標値が4,837人となっている。目標値を暫定値よりも下げるのは何故か。

(事務局)

5,068人という数値は令和元年12月末の数値である。令和元年度末には5,000人を切る事が予想される。年少人口であるので、15歳になる人数よりも生まれてくる人数が少なければ年少人口は減ることとなる。1年間延長した場合に、現在の目標値よりも少なくなることが予想される。今までの平均的な減少割合である2.5%を現在の目標値に反映した数値となっている。出生率は年々下がっているため、目標値もそれに応じて下げさせていただいている。

(委員)

相生町商店街の歩行者数がKPIとして掲げられているが、コンパクトシティの成否がここに数値として表れるのではないか。これからツルヤを含む複合型施設が建てば、これからこの数値は上がることが予想されるが、そのあたりは如何か。

(事務局)

現状値が目標値を少し上回っているため、それに伴い目標値を引き上げた。複合型中心拠点誘導施設を建設していく中で、補助事業に関して国の方へ報告した最新の数値が 1,300 人となっているため、目標値を 1,300 人とした。令和 3 年度以降は状況に応じて、さらに目標値を上げることが考えられる。

(委員)

学校に行くのは楽しいと思う児童・生徒の割合について、現状値に対して目標値の 80.0 以上というのは低いように感じるが如何か。

(事務局)

この数値は、全国学力・学習状況調査の中の回答結果から取り出している。目標値を 90.0 以上とし、様々な学級づくりや授業改善等に取り組んできたが、目標値には届かなかった。この KPI 自体が基本目標にあまり合っていないため、この KPI を変更したいと考えている。次回は見直しを行いたい。全国平均が約 80% であることと直近の小諸市の数値を鑑み、目標値を 80.0 以上とさせていただいた。各種取り組みは引き続き行っていきたいと考えている。

(会長)

小学生から中学生になるにつれ、学校に行きたいという数値は低くなるのが世の常であるようには感じる。なぜ中学生になるにつれ数値が低くなっていくのかを考えることが、学校改革のポイントかもしれない。

他に質問等あるか。

(特になし)

(会長)

特にないようなので私から一点伺いたい。小諸 DMO にも関係するが、懐古園関連がうまく進んでいないことについては分析しているか。

(事務局)

懐古園の入園者数が目標に届かず、年々微減している状況である。懐古園の入園者数は気候にも大変左右される。平成 28 年は真田丸が放送されていた時期と重なるため、上田に行った観光客が小諸に来ていたことも考えられ、目標値自体が高く設定されていたと思われる。現在、小諸観光局と協力して、小諸に来た観光客に調査を実施している。分析を行い、それにより誘客をしていきたい。また、動物園の再整備もこれから具体的に始まる予定であり、魅力を上げ入園者数の増加に繋げていきたいと考えている。桜と紅葉の季節以外にも来ていただく有効な手立てを考えていきたい。

(委員)

市外の者が懐古園を訪れる際、懐古園の駐車場と入園料で二重に料金を取られているように感じる。二重に取られていることを感じさせないようにする工夫が必要ではないか。

(委員)

散策券と入館料を含めた券の二本立てになっているかと思うが、市外から来た方にとって散策券はあまり必要ではないように感じる。散策券のみ必要という方と、全てを周りたいという人の割合を教えてください。

(事務局)

過去に駐車場に車を停めた場合、入園料を1名分無料にする取り組みを行ったことがあったが、その後の検証の中ではあまり効果がなかったようである。今回のこういったご意見を受け、再度検討をしていきたい。散策券のみの購入者もほどほどにいる。団体客に関しては共通券が多い。最近では観光バスの形態が少なくなってきており、個人で来る観光客が増加している。

(会長)

4月以降、こういった点についても抜本的に色々議論していくこととさせていただく。

(事務局)

今回は暫定の改定ということであるが、第2期の総合戦略を策定する際には、令和元年度の数値も確定しているため、今回のご意見も参考とさせていただき、改定を行いたい。

(会長)

それでは、改定は事務局の提案のとおりとしたいがよろしいか。

(異議なし)

(2) 第11次基本計画策定スケジュールについて

(事務局、公益財団法人日本生産性本部より資料「策定スケジュール案」に沿って説明)

(会長)

7月頃より頻繁に総合計画審議会を開催し、基本計画の策定作業を進めるということであるのでご承知おき願いたい。

(3) その他

(水木一郎のプロモーションビデオを放映)

(会長)

協議事項は以上とさせていただく。副会長からは何かあるか。

(副会長)

糸屋ができたが、コロナウイルスの関係でお客が減り、市内の旅館業者も大変かと思われる。相生町の夜の街も寂しくなったように感じる。まだまだ厳しい状況が続くかと思われるが、力を合わせ頑張っていきたいと思う。

(会長)

糸屋のアンケートも配布してあるので、ご覧のうえご意見をいただきたいと思う。事務局、他に何かあるか。

(特になし)

5 閉会

午後 5 時 20 分終了